海洋リサーチを終えて

上平　啓史

B&G財団　WEBマガジンアンドリー　VOL.7
『調査隊』ハワイレポート（上平　啓史くん）

同じ地球上の人類の生きづく土地であっても、広い太平洋を越えた先にある島、「ハワイ・オアフ島」では、その環境が大きく違っていた。また、実際の環境だけでなく、環境に対する思いや考え方も、我々日本人とは違う感じがした。

平成１５年１２月２０日～２４日まで、私達は「ハワイ・オアフ島」で、海洋線調査を行った。

ハワイ海岸線というと誰もが「青くてキレイで澄んでいる」というイメージをもっているだろう。ハワイの海はまさにそのとおり“自然”という名にふさわしい所であった。

実際に海に入り、様々な海洋生物を観察した「ハナウマ・ベイ」も「サンディビーチ」も、オアフ島を囲む海はすべてがきれいだった。海水のキレイさ、青く澄んでいる様子、これが本当の海の姿と言えるだろう。

私達が普段見ている日本の海と比べるとゴミが少なくキレイだ。確かに、地球上で位置している場所は違うのだが、ここの海を観察して、本当の海の姿を身をもって感じることができた。

しかしそんなキレイな海も、徐々に汚染されてきているという。実際に海岸線を歩いてみると、あり得ないものが、海岸の所々に打ち上げられている。当然これは我々人間がしたことであり、「環境問題」が騒がれている今でもこうして汚染は進んでいる。このことから、一人一人の環境に対する意識の低さを感じずにはいられなかった。

また、海に漂流するゴミが増えたことで、海に生息する生き物たちも被害を受けている。固有種の「ハワイアンモンクシール」は、このゴミによって溺れてしまうなど、ただならぬ被害を受けている。私達人間の軽はずみな行動が多くの生物を死へと招き入れてしまうなんて、信じられないことだった。しかしこういうことは現実に起きていることであり、環境破壊が身近な生物をも破壊していくという、ただならぬ事態を引き起こす一歩を歩んでいるのかもしれない。

海の環境の状態だけでなく、移動中などで様々な風景を見て感じたことがある。それは道端には、多くの樹木が植えられ、ホテル等の建物にも、木材がふんだんに使われている。気候の違いもあるだろうが、どこか自然を活用したものがあった。たとえ、人の手が加えられている自然環境であっても、自然の美しさを基盤に築かれている。それがハワイなのだと感じた。

今回のリサーチでは、ハワイの自然の素晴らしさ、雄大さなど、日本との違いを見つけるとともに、今、自分たちがしていかなければならないことも見つけ出せた。徐々に私達の生活の近代化が進み、自然と触れ合うという機会が少なくなってきている。そのためだろうか、環境に対する意識が乏しくなってきているように思える。しかし、ハワイでは、常に身近なところに海があるため、自然の雄大さに触れる機会も多い。そして、自然の大切さをより理解しているため、あのような素晴らしい環境が残っているのだろう。

また、ポリネシア人として栄えていたころから、服を着ることもなく、自然のものを取り入れてばかり生活していた。そのことも大きく関係しているのかもしれない。

環境保持改善。言うのは簡単だが、実行し結果を出すまでにはかなりの月日を要する。

だからこそ、私達若者が今、行動していかなければならない。そのために、若い世代みんなが、共に手を取り合い雄大で、心安らぐ自然を目指す一歩を歩んでいきたい。そういう思いを強めてくれた今回のリサーチは、大変貴重なものだった。

B&G財団　WEBマガジンアンドリー　VOL. 7
『調査隊』ハワイレポート（上平　啓史くん）

B&G財団　WEBマガジンアンドリー　VOL. 7
『調査隊』ハワイレポート（上平　啓史くん）